

発行—2014年8月31日

編集—群馬県大学図書館協議会「会報」編集委員会 前橋市荒牧町4-2(群馬大学総合情報メディアセンター内) TEL.027-220-7180

<http://gdtk.lib.gunma-u.ac.jp>



CONTENTS

- 研究会報告 平成25年度第2回大学図書館研究会 —— 2
- 編集後記 —————— 8

研究会報告

大学図書館研究会・群馬県図書館協会専門研修 (群馬県大学図書館協議会・群馬県図書館協会 共催)

○平成25年度第2回

テーマ：「ラーニングコモンズの利用事例」

日 時：平成26年3月14日（金）13時30分～16時30分

場 所：高崎経済大学図書館ホール

参加者：23名（大学図書館21名、公立図書館1名、高校図書館1名）

講 演：「ラーニングコモンズの利用事例」

共愛学園前橋国際大学図書館長 教授 後藤 さゆり 氏

【概要】 近年、ラーニングコモンズという学習環境への関心が高まっている。そこで、共愛学園前橋国際大学の KYOAI COMMONS の実践を事例として、ラーニングコモンズ設置の課題について議論を深めた。背景には、高等教育における学びの質的転換がある。学生の能動的な学習およびそれを取り込んだ授業であるアクティブラーニングを支援するラーニングコモンズが有効に活用されるためには、大学のカリキュラムとの連携が不可欠である。また、ラーニングコモンズでは従来の図書館機能を超えたサービスの提供を必要とするため、整備するためには人的サービスも含めたシステムを整備することが大きな課題である。



会場・高崎経済大学図書館



後藤講師



末松大学図書館協議会長



講義風景



質疑応答

参加者の意見等

「(ラーニングコモンズを)導入する際の参考になった」「実践例が伺えてよかったです」「県内の大学の事例なので刺激になった」との感想が多く、たいへん好評でした。ラーニングコモンズの整備については、「大学全体でとりくみ、考える事だと感じた」「大学全体の協力が必要」との感想が多く、図書館だけにとどまらず、大学関係者に広く聴いていただくべき講演であったと感じました。また、KYOAI COMMONS が先進的な事例であったためか、「自分の大学では(ラーニングコモンズの導入は)難しそう」との感想を寄せた受講者が数名ありました。「入れ物や場の提供だけでは、ラーニングコモンズがアクティブラーニングにつながらないということがよくわかった」というのが、今回の講演会を象徴する感想だったと思います。講演終了後には高崎経済大学図書館の見学が行われました。

<レジュメ>

ラーニングコモンズの利用事例

共愛学園前橋国際大学 教授 後藤さゆり

1. ラーニングコモンズとは

(1) インフォメーションコモンズ

学習を支援するために組織された、物理的、デジタル的、人的、社会的な資源を関係付けた、ネットワーク利用のためのアクセスポイントと、関連する情報技術(IT)の道具の集合体

(2) ラーニングコモンズ

移動可能なパーテーションなどによるフレキシブルな空間、グループ学習室、ワークステーション、プレゼンテーション室などの共同作業向きの場所、カフェやラウンジなどの社交的な施設に加え、学生の主体的な学習活動を重視し、学生が自主的に問題解決を行い、自分の知見を加えて発信するという学習活動全般を支援するための施設とサービス・資料を提供するもの

(3) 背景としての大学における教育・学習観の変化

・「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」(2012年8月 中央教育審議会)

▷ 学生にとって受動的な学びから脱却して、主体的な学修の体験を重ねることで、生涯学び続ける力を修得できるような教育の必要性を強調

▷ 学生：「事前準備・授業受講・事後展開を通して主体的な学修に要する総学修時間の確保が不可欠である」

▷ 大学教員：「学生の主体的な学修の確立のために、教員と学生あるいは学生同士のコミュニケーションを取り入れた授業方法の工夫、十分な授業の準備、学生の学修へのきめの細かい支援などが求められる」

・成熟社会において求められる能力「学士力」

▷ 批判的、合理的な思考力等の認知的能力

▷ 社会的責任を担う、倫理的、社会的能力

▷ 総合的かつ持続的な学修経験に基づく創造力と構想力

▷ 想定外の困難に際しての判断の基盤となる教養、知識、経験

- ・社会人基礎力（経済産業省）
 - ▷前に踏み出す力（アクション）
 - ▷考え抜く力（シンキング）
 - ▷チームで働く力（チームワーク）

(4) アクティブラーニング：学生の能動的な学習およびそれを取り込んだ授業の総称（本来的に学び手は能動的で有能であり、学び手同士がやり取りをする中で創造的に知識を構成する）

- ・アクティブラーニング（AL）型の授業形式：
 - ▷一般的AL：知識の定着・確認を目的とした演習や実験等
 - ▷高次のAL：獲得し定着した知識やスキルを活用する
課題探求学習、問題解決学習、体験学習、協調／協同学習、PBL(Problem／Project Based Learning)等

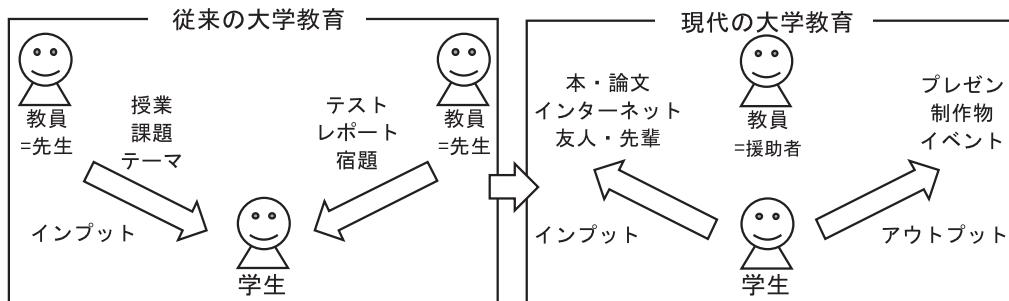


Figure 1 教育観の変化による学生のインプット・アウトプットの変化

(出典：奥田2011)

(5)図書館の役割の変化

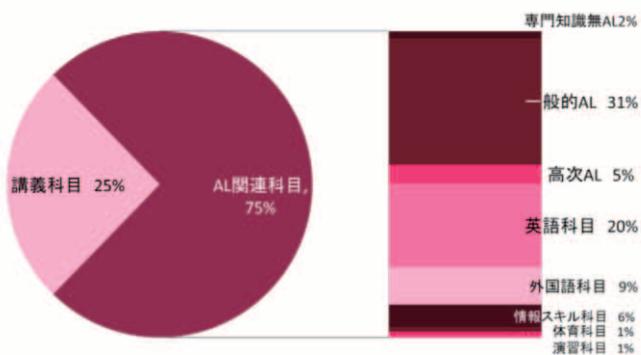
- ・インフォメーションコモンズとしての大学図書館：
学生たちの情報収集の過程(インプット)に対する学習支援
 - ・ラーニングコモンズとしての大学図書館
レポートやグループ活動の成果物、プレゼンテーションなど入手した情報から学生が何かを生み出す過程(アウトプット)に対する学習支援
- ↓
- LCを運営するならば従来の図書館の仕事以上の仕事をやることになる

2. KYOAI COMMONSの背景～本学における学び～

- ・本学の授業概要によると多くの授業において何らかのアクティブラーニング的要素（※）が加味されている。

※グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーション・振り返りシート・フィールドワーク・PBL(Problem Based Learning=課題解決型演習)等

- 専門知識を定着させるための一般的アクティブラーニングに加えて、PBL等の高次アクティブラーニングも少なくない。
- 講義科目でアクティブラーニングを導入している科目的割合は38%、英語や語学、情報や体育、ゼミ等の演習科目を加えて「アクティブラーニング関連科目」とすると、その比率は75%にものぼる。



3. KYOAI COMMONSのコンセプト

・『共愛・共生の理念』

▷コモンズとは、人々が集う空間。KYOAI COMMONSには、学生、教職員はもちろん、園児や児童・生徒、そして地域の人々も集う。様々な集いの体験を通して「共愛・共生の理念」を感じることができる空間である。

・『「つながる」から「つなげる」へ』

▷ KYOAI COMMONSは、人と人との「つながる」場。共につながりながら学び、活動することで社会と共に生きることの重要性を感得することが期待されている。

▷社会は今、そのつながりを生み出す「つなげる力」を求めていいる。自らが前に踏み出し、人と人を、人と社会を、知と知を、地域と世界を、そして自分と未来を「つなげる力」である。

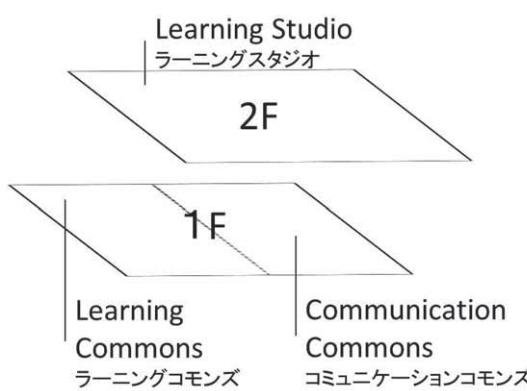
▷つなげるためには、前に踏み出し、チームで協働し、創造することが必要であり、KYOAI COMMONSには、それらを身につけるための主体的な学びと協働の学びを創り出す場所としくみがある。社会が求める力、社会と共に生きる力を身につけることができる「場」が KYOAI COMMONS である。

▷ KYOAI COMMONSは、つながりのなかで、新しい挑戦を誘発しあい、新たなつながりを作りながら成長していく学生たちの、前に踏み出す一歩を導くことをその役割としている。

4. KYOAI COMMONSの機能

(1)なりたちとしくみ

- ・ゆるやかにつながる3つのゾーン



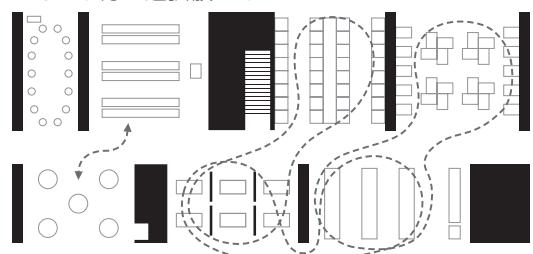
Learning Commonsは学生の主体的・協働的な学びの場となり、アクティブラーニングを実現する環境。Communication Commonsは人々の集いの場で、学生・教職員だけではなく地域の人々にも利用されながら、豊かなコミュニケーションが生まれる「広場」。

Learning Studioは、アクティブラーニングに対応する先端の教室群。

(2)交じり合うまなざしと活動

- ・KYOAI COMMONSは「壁柱」の配置のリズムの違いを利用して、向かい合う部屋同士をつないで使うなど、学生や教員が自由な発想で使用できるよう工夫されている。
- ・この壁で仕切っただけの半分開いた部屋が繋がっていくようななしきみと多用されるガラス壁によって、そこで行われる個々の活動同士が接触しやすい状況、いわば活動の交じり合いとまなざしの交差を生み出し、それぞれの活動が相互に影響、刺激しあいながら、学びを一つの形にとどめず、「つながる」ことで「つなげる」へと導かれるしくみを有している。

つながり方に選択肢がある



(KYOAI COMMONSパンフレットより)

(3)各エリアの機能

- ・Learning Commons: 5つのエリア、2つのスタジオ、そしてスタッフカウンターがあり、それぞれ特有の機能を有している。(KYOAI COMMONS パンフレット p.14-15)
- ・Communication Commons: 地域にも開放された集いの広場であり、大きなレストランや学生が運営するカフェがある。(KYOAI COMMONS パンフレット p.16)
- ・Learning Studio: 協働する学びのための環境を整えた教室やゼミ室があり、ガラスの教室は学びの見える化による刺激し合う空間を生み出している。(KYOAI COMMONS パンフレット p.17)

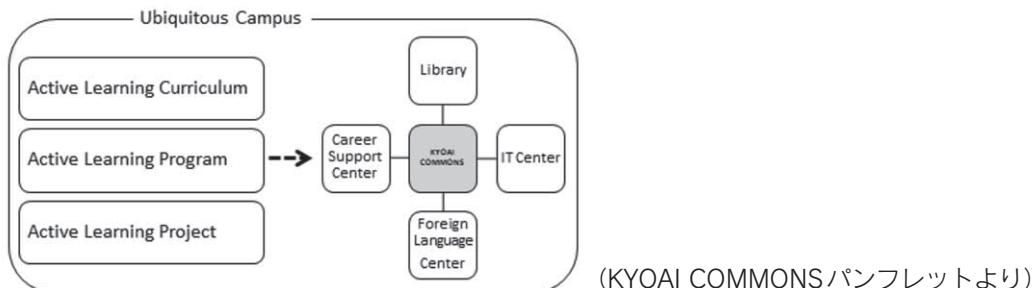
(4)ハブ機能（つなぐ機能）

- ・KYOAI COMMONSには、既存の教育システムや教育施設における学びをつなぐ機能もある。

5. KYOAI COMMONS の運営

(1) 4号館運営委員会の組織と機能

- 理事長、学長、副学長、学部長、学長補佐、関係する組織の代表者、コンシェルジュ、総務担当者
- 運用ルールの決定、学生主体の企画プロジェクトの支援



(KYOAI COMMONSパンフレットより)

(2) コンシェルジュによる運営支援

- 日常の運営支援
 - 学生の学修支援
 - 学生の企画プロジェクトの相談
 - 予約利用
 - 機器の貸し出し
- プロジェクター、WIVIA、電子黒板、ビックパッド、AV機器一式

(3) 学生同士のサポート・学び合い

- 学生カフェ運営
- ITサポート
- 英語アカデミックピアチューター

6. 既存の図書館との関係

(1) 学習環境としての区別

- KYOAI COMMONS は動的な学習環境
 - ALを中心とした共同・協働（ユビキタスキャンパスによる図書館との連携）
- 図書館は図書を中心とした静的な学習環境
 - 個人学習中心、図書に出会う、自己に出会う・見つめる、図書を通した仲間との学び合い

(2) 図書館ならではの活動の再認識、新たなプロジェクト

- 図書館リニューアル

(8) 平成26年8月31日

- ・共愛学園前橋国際大学図書館活性化プロジェクト GuidE
 - ・ビブリオバトル開催
 - ・学生版図書館だより
- ・司書によるイベント開催
 - ・学生参加の選書ツアー
 - ・世界の絵本の読み聞かせ

7. 実績：学生による自己評価・就職率



8. 今後の課題・将来構想

- (1)より積極的な高次ALとの連携
- (2)育成する人材像に照らしたALの意義を再共有
- (3)図書館との有機的な連携
- (4)図書館のサービス・機能の充実
- (5)学生・地域との連携

9. KYOAI COMMONS 情報：公式WEBページ・Facebook

<http://www.kyoai.ac.jp/4thBld/>

<https://www.facebook.com/KYOAI.COMMONS>

編 集 後 記

先般実施した地域リポジトリ「AKAGI」サポートに関するアンケートへのご協力ありがとうございました。登録マニュアルの整備やハーベスティング手続きの広報など、多くの課題が明らかになりました。この結果を踏まえ、今後は事務局が中心となって積極的にサポートを充実させていきたいと思います。おかげさまでダウンロード数は増加傾向にあります。文字通り地域に根ざした質の高いリポジトリを目指し、努力して参ります。